

## 第2回電気通信工事に係る施工管理技術検定に関する検討会 議事概要

○日 時：平成29年5月12日（金）10：00～11：00

○場 所：中央合同庁舎3号館1階共用会議室

○出席者（五十音順、敬称略）：

稲田修一、木下誠也、中村英夫、松本隆男

### <前回の指摘事項について>

- ・指摘事項に対する対応の方向性について了承。

### <電気通信工事業の建設工事の内容の見直しの検討について>

- ・見直し（案）について了承。

### <とりまとめ（案）について>

- ・電気通信のネットワークが高度化・複雑化しており、電気通信工事の技術者はより高度な知識・能力が必要となっている。また、これからIoTやビッグデータの時代を迎え、ますます技術者の必要性が高まるものと思われる。このため、「工事担任者など工事に関わる資格もあり、主任技術者の要件を検討する際には、この取扱いについて検討する必要がある」とあるが、この検討を早期に行うべきである旨を追記すべき。
- ・上記指摘を踏まえて修正の上、とりまとめることについて了承。

### <全体を通じて>

- ・電気通信は様々な分野があり幅広いので、実務の能力を確認することが難しいのではないかと。実地試験について、現状は筆記試験だが、試験のやり方を工夫してはどうか。
- ・電気通信は様々な分野があり幅広いが、試験はそれぞれの分野で細分化するのではなく、電気通信の全般の知識を共通に求め、専門分野の知識は選択問題とするなど、施工管理を行うにあたって必要な幅広い知識を求めようとするべき。
- ・電気通信に限った話では無いが、現場経験が豊富で施工管理の能力を有しているが、筆記試験が不得意な者もいるという話をよく聞く。このような者も監理技術者等として活躍できるよう何か考えられると良いのではないかと。
- ・電気通信に限った話では無いが、施工管理で意識すべき範囲がライフサイクル全体に広がっている。施工段階のログを収集・集積し、それを維持管理段階で活かすといった取り組みは今後重要になっていくものと思われ、施工管理において今後このようなことも求められるのではないかと。
- ・電気通信の分野については、他の分野よりも技術の発展が早い分野であるため、今後、制度化された後に試験を実施していくにあたり、その辺りに留意して欲しい。

以上